

# 森の川自然散歩

2018年8月「大」昆虫展開催記念特集号

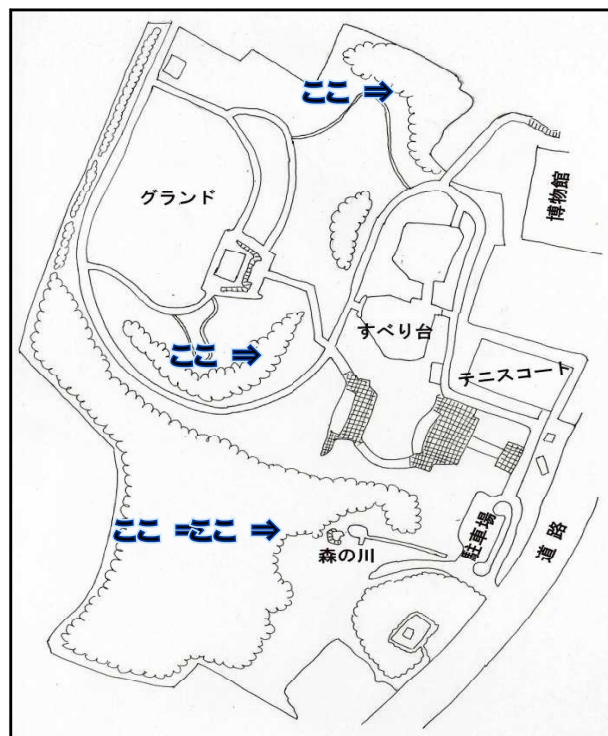


公園の貴婦人、明るい森を優雅に翔ぶ。

上：夜に森の中で休んでいるツマベニチョウのオス。敗れた翅に、彼がたどってきた道のりが現れています。

## ツマベニチョウ（メモ）▶▶▶

- 体の大きさは、翅を開げると9～10cmになります。オスの前翅の先は鮮やかなオレンジ色をしています。つまべに(端紅)の名は、これに由来しています。
- 真冬の1月と2月を除いて、ほぼ一年中見られます。公園の遊歩道沿いに、遊歩道に沿うように優雅にとんでいます。
- これから夏の季節は、公園を散歩していると、普通に見つかるようになります。
- 森の川の側にあるギョボクの葉を探すと、卵や幼虫が見つかるかも。



# 森川公園で見つける不思議

緑の公園には、不思議がいっぱい見つかります。

## (18) オオゴマダラは森川公園では見つからない??

2000年に刊行された宜野湾市史第9巻資料編8自然によると、宜野湾市内からは705種類の昆虫類が記録されています。そのうちの186種類が森川公園内から記録されています。この報告を読んでいて、ふと不思議に思うことがありました。オオゴマダラが森川公園では見つかっていないのです。

オオゴマダラはもともと海岸近くに生息するチョウです。食草であるホウライカガミも海岸地に生える植物です。最近では、内陸でもオオゴマダラを呼ぼうとホウライカガミを植えたりしているのですが、普通に見るようになっていたので、この結果は意外といえ意外でした。宜野湾市から自然海岸が消失していったことと関係があるのでしょうか。



少し高い梢の中で休むオオゴマダラ。

# 森川公園8月の花ごよみ

## ツマベニチョウの食樹 ～ ギョボク ～

- 森の川の泉の手前と右後ろに大きな木が、泉の左脇に小さめの木が生えています。
- 低地から山地の、やや湿った林内に点在し、石灰岩地に多い。琉球列島の各島で普通に見られますが、最近では公園などに植えられていることもあります。
- 高さは10mにもなり、三出複葉の葉が特徴的です。初夏に白い花が咲き、しばらくすると花の色は淡い黄色に変わります。そして秋から冬にかけて黄色から橙色の実がつきます。
- 名前の由来は、かつてはこの木の材を疑似餌（ぎじえ）に利用していたことからきています。



▲ギョボクの幼木。



◀ギョボクの葉にいる幼虫。

# 森川公園のチョウ大集合!



◀ジャコウアゲハ

シロオビアゲハ ▶



◀アオスジアゲハ

ツマムラサキマダラ ▶



◀リュウキュウアサギマダラ

アサギマダラ ▶



◀モンシロチョウ

キチョウ ▶





◀イシガケチョウ

リュウキュウミスジ ▶



◀ルリタテハ

アカタテハ ▶



◀ウスイロコノマ

ツマグロヒョウモン ▶



◀ヤマトシジミ

テングチョウ ▶



博物館で森川公園の見取り図をもらって、  
自分が見つけた動物や植物をメモしていこう！

疑問や質問があったら、博物館の職員にいろいろ聞いてみてね。  
宜野湾市立博物館 〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1  
Tel:098-870-9317 Fax:098-870-9316

